

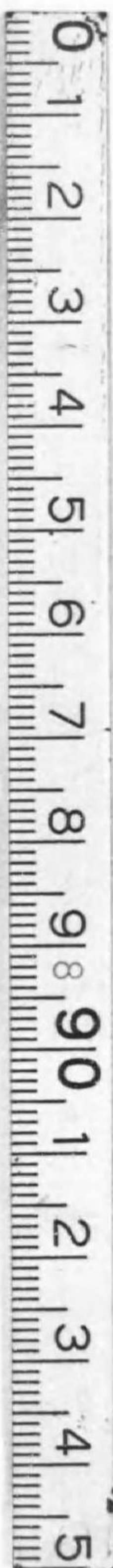
91

特216

902

参考資料

皇國農民同盟と
その最近の活動



始



特216
902

皇國農民同盟とその最近の活動

△ まえがき

昨年十二月十八日大阪府北河内郡飯盛山麓に在る四條暖神社に於て結
 盟式を擧行した皇國農民同盟は、非常時日本意識を反映せる新しき農民
 運動として當時各方面の注目を惹きつゝあつたが、最近に至つ
 その組織勢力を擴大し、全國農民組合本部派（杉山元治郎氏一派）
 域に肉迫して漸次その基礎的工作を進めてゐる。



元來大阪府下に於ける農民運動は組織勢力の上から見る時はさ程に重
 要性をもつてゐないのだが、大大阪工業都市を包む近接環状農耕地とし
 ての關係、更らに小作紛争議の法廷^斗争の主要事件が控訴院以下主なる
 裁判所所在地である大阪に集中される關係、等よりして關西一帯の農民
 運動の理論的且つ實踐運動における指導的地位を把持してゐるのである
 従つて全國農民組合にとつては反對派たる全國會議派（左翼系）の策

動にも拘らず依然としてその金城鐵壁を誇る牙城として強力なる地盤を
あつた。

然るに外遊後久しく沈黙を續けつゝ、あつた元全農顧問吉田賢一氏並に
元全農組織部長寺田宗一郎氏等が突如として日本精神高揚の建前より超
階級農民運動の烽火を擧げた事は全農本部派にとつては全く晴天霹靂で
あつたに相違ない。殊に旧職中全農大政府聯合會委員長初田某君が破席
知罪によつて大阪北區支所に收容された事等が從來の全農組合員に大い
なるシヨックを興へ、精神的動搖も生じ、新しい吉田氏等の勢力拡張に
拍車を加へた模様である。

國家主義運動が一時的流行であるかの如くに社會運動の凡ゆる戦線に
權頭し所謂新興フアツシヨ勢力の急激なる伸張を見た昭和七年度に比し
て昭和八年下半年期以降は此の如き時代潮に乗つて簇生した泡沫團體の自
壊作用を伴ひ外觀甚だ振はざる状態を現出した。乍然此の沈滞と自壊作
用は運動内部に潜む夾雜物の清算^過程を意味するものとも解釋さ水るの

で、所謂純粹化のための一般現象である。一例す水は、大日本生産黨の
神兵隊事件後における旧組織運動、國家社會黨の分裂、新日本國民同盟
の内紛等々が水であるが其他群小國家主義團體の動搖はかな 廣範圍
に亘つてゐる。

斯くの如き國家主義運動の退潮期に新しく孤々の聲を擧げた皇國農民
同盟は、言ひ換えれば最悪の條件下にその出發點を求めてゐる事であり
随つて政策的にも、組織的にも背水の陣を布いてゐる有様は容易に窺ひ
得られる。それだけに又地方的勢力であるが根強さと、執拗さを持つた
運動として充分注目に値するものである。

以下結成當時から今日に至る右同盟の活動組織状態其他に就いて調査
を進めて見る。

△ 結盟式を宣告

皇國農民同盟は轉換期日本、非常時日本の特殊性を意識せる日本精神

— (4) — に立脚し「農村共同体」の完成によつて疲弊せる現下日本の農民を奮起せしめ、農村自体の更生を目標として同志の糾合に努めつゝあつたが、昨年末頃に至つて漸く準備を整へ、十二月十八日午前十一時より大政府北河内郡に在る國粹精神に縁の深い四條畷神社に於て結盟式を擧げた。當時神前に参集せるもの吉田賢一、寺島宗一郎氏等をはじめ各地方代議員約百名に達し、中に異彩を放つたのは地元四條畷村民代表が仕事着のまま、耕引作業を中断して式場に臨んだ事で、参列者は頃々に生氣を加へた。型の如く宇多川官司齋主となつて結盟式を執行し、終つて全午後一時より同村旅館伊勢屋で發會式に移り、「君ヶ代」齊唱後宣言、細領の審議をなし、萬場一致をもつて可決、茲に皇國農民同盟の第一聲を擧げたのであるが、最後に農村救窮に關する事項として「現内閣の生命を賭しても農村窮乏についての根本的解決策を擧てられたし」との決議文を可決し、各幹部上京の上首相、農相、陸相に提出することゝなつた。役員は理事制を採用し理事長一名、他に總裁一名であるが、發會式に

於ては總裁の決定を保留し、理事長に吉田賢一氏が推薦された。主なる役員氏名並に可決せられたる綱領、宣言左の如し

理事長 吉田 賢一

常任理事 吉岡 八十一

吉岡 義一

小武 保三

寺島宗一郎

喜久田安一

綱 領

- 一、われらは萬民共に皇國の礎たるを自覺し日本精神に基く農村共同体の完成を期す
- 一、われらは一切の能力を統合し、生産力の組織的發展を圖り需要の遺憾なき充足を期す
- 一、われらは日本精神と經濟の徹底的計劃化により、階級斗争なき農村の實現を期す
- 一、われ等は土地制度を改廢して社稷を整備し農村を凡ての獨占資本の支

配より免れしめんことを期す。

一 われ等は農業の共營化、協同組合の徹底化を期す

一 われ等は生活の確保發展のため必要なる一切の經濟的、文化的條件の具備を期す

一 われ等は都會中心の諸制度を改廢して都市農村の均衡化を圖り農村文化の高揚を期す

一 われ等は建設動力たる基本組織体（皇國農民同盟）の完成と共に特に將來農民の擔荷者たる青年育成の重大任務を自覺す

われ等は徳を磨き勞動を尊び相互犠牲の精神を以て堅く相結ぶ萬難に耐へ此の綱領の實現を期す

宣言

一 外、滿洲事變の勃發以來我國は世界列國の重壓下に立ち、更うに聯盟脱退を翼機に國際關係の危機漸く増大す。内都市と農村を問はず大衆生活の不安は深刻化し、殊に農村積年の疲弊窮乏は絶望に近い。今

や國民の大半は全く生活の自信を失はんとす。一部世上に傳わる好景氣來とはインフレの非常政策と扁替安の僥倖が都會の一隅に浮動景氣を齎らせるのみ

多年權勢を恣ま、にし皇國の社稷をむしばる來た政黨は沈黙して聽晦し、金權の王座より政界を颯使し、國民經濟を自己的掌中に支配し來た黙阿は多數國民の反感の中にも依然資本の重壓下に大衆の幸福を奪ひつゝあり。腐爛したる議會主義崩解期に臨む資本主義は、かくして國民生命の發展を阻み、鋭く之と對立するに至つた

二、危機を胎み不安の深化しゆく此の内外の情勢非常時局に當面するわが國民は、正に昭和維新の覺悟を以て具體的現状を直視し、その源を究め將來を運觀して根本的打開、發展的建設の用意と決意なくばならぬ。

國民の大半を占め全同胞の食糧を生産する農民の生活安全なくして現下難局の克服あるべからず、更らに將來日本建設の基礎たる農民の自

覺なくしては一切の世界変局に臨む能はず。

三、わが農民は護國の民だ。困難いたる秋最も多く血を以つて皇國を護り來り、しかも平時に於ては富の生産者として國を護り、日本精神を堅持して心身擧げて皇國の礎となる。農民に新日本建設の巨火燃え上ることなくして我等が地球上民族的崇高なる使命の遂行断じてあるべからず。

四、皇國農民同盟は愛國勤勞農民の全國的結盟である。其綱領は日本精神の闡明と皇國の大道を貫徹せんとする實踐の大綱である。我等盟友は赤誠と危難に動ぜぬ勇猛と耐忍を以て相協カシ相扶け日本精神に基く農村共同体を完成せしめ發展して國民的共同体實現に至らしむるため自身を傾倒せんとす。

五、國體觀念は日本精神の精華であり、國史三千年を貫く民族的生命の中心である。世の治乱興亡、制度の變遷改廢、文化の興隆衰亡、國民生活の榮枯盛衰も所詮は國體を基とし、之を大地として其處に育成され

たる國民的生命的の進歩發展の跡である。あらゆる社會的改造は常に國體觀念を絶対的基礎としてのみ成就される。

六、日本精神は社會生活にあらはれて相互相助、同胞一人も食はざるなく、その處を得ざるなき共同精神となる。純化した家族精神はその典型である。此の精神を新農村經營の根本基礎とし各地方の具體的状態に則して個々の實踐的要綱を定め、現代資本主義社會の生活原理、弱肉強食、世の一切を「物」に化せぬは止まぬ唯物文明、唯物思想を止揚し、等しく文化を享有し得る農村を建設せん。

七、農民は資本の奴隷に非らず。又農村は都會の從屬に非らず。農民を獨占資本の支配より解放し土地制度を改廢して社稷を整備し、生産の化學化、交通の完備、信用制度の改廢、勞働の再編成、消費の合理化を圖り、巨大なる負債と耐へがたき負担の重壓をまぬが水しめ、必要生活費の所得を確保し購買力を増大し需要を充足せしめて全体的國家計劃下に統制し、都市產業並に都會生活との均衡を圖る。

八、農業は細農の孤立經營を止揚し相依相助と科學的創意と統制の原理に
 共營化を目標とし、生産力の發展的組織化を期す。農民生活の紐帯は
 協力にあり、協同組合の任務や従つて重し。たゞに經濟のみならず一
 切の文化に亘り生活の全面的協同化を圖ることが將來農村の重要な
 指標たらねばならぬ。

九國を食ひ養ふ政黨、同胞の窮乏と困苦によつて暴富を恣にする欺罔、
 その悪統を汲み利慾の前に社會を顧みざる者、國体と絶對に相容れず
 る共產主義、日本を忘れ、日本精神に據らざる社會運動等一運の亡國
 的存在を徹底的に排撃し吾等は各自皇國の礎たるを自覺し日本精神の
 大旗を衝り國民的共同体の完成へと協力邁進せん

十、わが同盟は最後の勝利を確信す。われ等の前途はやかた將來日本建設
 への決定的動力となり、凡ての改革的建設的運動はこゝに統合止揚せ
 られ、昭和維新實現への大同團結たらむことを堅く信ず、
 右宣言す

昭和八年十二月十八日

皇國農民同盟

△ 最近の活動

結成後間もない同盟の活動は農民救窮決議文の關係閣僚への提出を一
 段落として押し追つた歳末を過こし、具體的な組織運動は本年一月に持
 ち越された。而して運動の形式は地方勢力の特徴とも見られる地區的座
 談會を頻繁に持つ事によつて確實な地盤をぬらひ、その方針が着々とし
 て成功を齎らしてゐるもの如くで、全國農民組合からの脱退も相當數
 に連してゐるが、その運動は府下北河内郡を中心として進められ次第に
 三島、中河内、南河内の諸郡に支部の組織を擴大しつゝある。以下皇農
 同盟（略稱）のニュース其他資料によつてその動きを見る。
 一月八日午後一時より府下北河内郡牧野村諸市場農事實行組合事務所
 に於て「非常時局と農村問題」を研究題目とする座談會を開催。全日参

集せる農民は牧野村榮野、天ノ川、磯島、清の各字より約六十名であり、本部より吉田理事長、吉岡、寺島、小武の各理事並に國社黨藤岡文六、小島利秀西氏等出席したが、尚ほ農村事情調査のため來村せる野砲兵第四聯隊附佐藤鐵馬中佐も多會して種々農村救乏打開に關し懇談をなし、全六時盛會裡に閉會したが、引き続き天ノ川部落に第二次懇談會を持ち天ノ川、磯島、葉野の各字の同盟加盟の相談が進められ三支部の成立が大体目鼻が付いた様である。

一月十三日には全農を脱退せる北河内郡山田村の農民二百三十名は同村小學校に於て中宮、甲斐田、片鉾、田口各部落に支部並に支部協議會を結成して氣勢を擧げた。會議は司會者谷村周太郎、議長寺島宗一郎氏等の下に開催、型の如く宣言綱領、規約を可決し各支部長を、中宮支部（大村富吉）、甲斐田支部（奥野庄造）、片鉾支部（山中光次）、田口支部（奥野正三）氏等に決定し、記念講演說會に移り、國社黨藤岡文六氏、前山田村小學校々長にし現交野村小學校々長相馬卯一氏、吉田賢一氏、

陸軍少將森下正氏等の熱辨あり午後六時散會。

趣して十四日三島郡山田村字下の互樂館に於て山田村別所、上、中、小川の各部落、隣村の岸部村、味舌村、三宅村の有志等約八十二名を召集して座談會を開き、本部より吉田理事長、吉岡、喜久田兩理事及び農村事情調査のため同行せる佐藤中佐等の間に意見の交換を行ひ、一月二十一日に陸軍中將權藤傳次氏等を迎へ同村に於て大演說會を開催することを決定した。

更らに同盟では將來同盟の中堅人物の養成のために短期な機關として「道場」設置を計劃し、着々と準備を進めつ、あつたが、北河内郡山田村、三島郡山田村に第一、第二の道場設置に成功し、科目並びに講師を左の如く決定した。

- 科目、(一)農村問題、(二)農業經濟學、(三)農村協同組合論、(四)農業共同經營問題、(五)國民共同体原理、(六)日本歴史、(七)哲學、(八)法律（農村法律問題）、(九)非常時局の解説、(十)科外講話として肥料、金融、副業、

農業上の話

講師、荒木義夫（協調會大阪支所）廣田光雄（大朝社會事業團主事）
 堀川嘉夫（辯護士）塩崎喬（醫學博士）吉田賢一（同盟理事長）
 其他府農事課技師等。

斯くして結盟後日も尚ほ深い皇農同盟は大阪府下各農村に意外な反響を
 見出し前述の支部及び支部準備會の他にも尚ほ引き續き組織を進め、三
 島郡味舌村、五岸部村、北河内郡守口町、中河内郡聖下村、全堅上、高
 守、恩智各村、南河内郡柏原町等に支部結成を急いでゐる模様である。
 元来大阪府下に於ける農民組織状況は、全口農民組合本部派一千名、
 全會議派一千名（共に公称数）、合計二千と見られてゐるが、實数は最
 近の状勢下にあつてその半数に満たぬものと考へられる。皇國農民同盟
 の直接目標とせるものも旧又は現全農組織層であつて、奪還せる組合員
 を基礎として新組織を進めつゝある。従つて現在の皇農同盟は旧農民組
 合關係が大部分を占めてゐるものとするからば、大体五百名を喰ひ込み

得たと思はれる。此の数字は將來性をもつてゐるだけに確定的な事は言
 へないが、現在の俣でも旧態依然たる既成農民組合運動に相當な影響を
 與へたるものとして充分注目に價するであらう。

昭和九年三月五日 印刷
昭和九年三月 日 行
(非売品)
大阪府北区梅ヶ枝町梅ヶ枝
発行所 大月社会問題調査所
兼印刷所 大月 久治

終

